

# 閉所，その周辺の概念について

富田悠生 明星大学心理学部

キーワード：閉所，侵入的同一化，偽成熟

## I はじめに

「閉所」とは，Meltzer,D. によって提示された自己愛構造体に関する概念である。本稿では，Meltzer,D. による内的対象の内部（区画された身体の一部）に侵入的に同一化し，その区画に閉所恐怖的に引きこもる組織化されたパーソナリティ構造について記述した。

## II 前提となる考え方

### 1) 内的対象と内的対象の内部

Meltzer,D. によれば，投影同一化は外的対象に対してだけでなく，内的対象および内的対象の内部に向けても用いることができる。例えば，こころのなかの母親対象：内的対象の内部に，投影同一化（侵入的同一化）できると考える。

### 2) 侵入的同一化 intrusive identification :

#### 内的対象への投影同一化

#### 『肛門マスターベーションの投影同一化との関係』1966

内的対象への投影同一化の概念を理解するためには，肛門期の始まりにいる幼児についてのメルツァーの記述が最も明白です。この段階で子どもは離乳を完了し，スプリッティングと理想化のメカニズムはあまり適切に作用しなくなります。母親は自律や括約筋のコントロールをさらに要求し，子どもは新しい赤ん坊が誕生するという現実，あるいは空想のなかで脅威を感じ，その結果母親から見捨てられると感じ，母親に敵意を感じるかもしれません。母親の身体と同じように子ど

も自身の身体も，悪い汚れた危険な部分を含んでいると体験されます。その失われた乳房は（滋養やすべてのよい感情の源として）理想化され，子どもは自分自身の身体内部に理想化された乳房を回復することを空想します。メルツァーによると，これは肛門マスターベーションが理想化された直腸の中身を盗むために，母親の身体に侵入するといった空想を伴っているために生じます。このようにして，子ども自身の身体内部と母親の身体内部との間の同一性に関する妄想的な混乱が創出されます。

(Cassese,S.F. 2001 / 2005, 訳書 p.7, 原書 p.7)

授乳が終わって赤ん坊をベビーベッドに寝かせ，母親が立ち去ると，敵意を抱きながら，母親の乳房と臀部を同等視している赤ん坊は，自分のお尻を探り始める。その円みと滑らかさを理想化しながら，ついには肛門を貫通し，こらえられ，溜められていたふん便に至る。この貫通過程において，母親を奪うために，母親の肛門に秘密裡に侵入するという空想（Abraham,1921）が具体化する。それによって赤ん坊の直腸内容物は，理想化された母親のふん便と混同され，そのふん便は父親とおなかの中の赤ん坊たちに食物として与えるために母親が差し控えているものと受け取られる。これには2つの結果が生じる。食物の源泉としての直腸の理想化，そして内的母親と投影（妄想性）同一化である。この投影同一化は，子どもと大人のあいだにある能力や権力での差異を消し去ってしまう。

(Meltzer,D 1966 / 1993, 訳書 p.126,  
原書 p.15-16)

\*原書は The Claustrium 内に採録された論文

### 3) 偽成熟 pseudomaturity 『肛門マスターベーションの投影同一化との関係』1966

子どもが、自分の心的対象としての母親の内部に侵襲的に同一化するとき、子どもと大人の区別が無くなる。侵入同一化では子どもは母親から分離する必要がなくなり、母親と同じになってしまうからである。こうした子どもは、外的な要求に合わせて、しばしば模範的に表面的な適応を示し、それは成人後も継続する。Meltzer,D. はこれを偽りの成熟と定義した。

この防衛機制の目的は、理想化された対象と混同することによって、分離と大人への依存を否認することです。それゆえに、こういった子どもたちは真に情緒的に成熟したり個人として独立した存在になることはなく、エディパルな葛藤に決して直面することなく、彼らが同一化している内的対象から情緒的に分離することなく大人になります。

…子どもにおける偽りの成熟のパーソナリティは、家や学校の双方での大人に対する模範的な行動によって特徴づけられます。そこでは彼らは成績が良く高い言語能力を示す一方、自分と同じ子どもに対しては相手を見下し傲慢な態度をとる傾向があります。しかし、これらの態度はフラストレーションの状況や批判には脆弱であり、基盤にある強烈な不安や敵意が露呈し、極端な暴力的行動が引き起こされます。大人における偽りの成熟のパーソナリティ構造は、表面的な適応や社会的な成功を可能にします。しかし、これらには欺瞞的な感情や内的な寂しさが伴われます。…こうした患者は、陽性的で理想化された転移や「偽りの協力」を確立しようとします。そこでの目的は、分析家から承認を得て、模範的な患者になること

です。これがうまくいかないときには、分析家は患者を理解することができないとか、妬んでいるとか、サディスティックだと患者に体験され、転移関係は陰性的あるいは性愛的なものに変形されます。逆転移のなかで、分析家は模範的な子ども（大人びた行動を批判されず、ほめられることを求めている子ども）の親のように感じたり、理想化と共謀する親（あるいは分析家）役割を容易にうけてしまったりするかもしれません。

(Cassese,S.F. 2001 / 2005, 訳書 p.7-9,  
原書 p.7-9)

子ども時代には、従順さ、お手伝いをする、大人との付き合いを好む、他の子どもには冷淡で横柄である、批判に耐え難い、言語能力が高いなどが際立っている性格の前エディプス期（2－3歳）的な具体化を促す。この性格学的殻が欲求不満や不安により一次的に崩れると、ぞっとするほどの激しい憎悪が露呈する。すなわち、癩癩、ふん便を嗅ぐ、自殺を企てる、ほかの子どもを激しく攻撃する、親がいじめると見知らぬ人に嘘をつく、動物を虐待するなどである。

…この適応の“偽り”の性質は、たとえ倒錯傾向が常軌を逸した性行動に至ってはいなくとも、成人生活においてははっきりしてくる。1人の大人としての欺瞞性、性的インポテンツ、あるいは（秘密の倒錯的空想で興奮する）偽りのインポテンツ、内的孤独感、基本的善悪の混乱、これらすべてが緊張した生活と満足の欠如を作り出す。大規模な投影同一化の必然的な産物であるうぬぼれと独りよがりだけが支え、補ってくれる。

(Meltzer,D 1966 / 1993, 訳書 p.126-127,  
原書 p.16-17)

（転移関係における偽成熟）

…分析過程での大人の協調性が分析家への偽－協調性や“お手伝い”に置き換えられる。この行動化には、どこか卑屈な振舞いのなかに、分析家に

説明してみせ、手伝い、納得させ、分析家の苦勞を軽くしたいとの欲望が現れてくる。それゆえ、しばしば分析素材は消化しやすいもので、“見出し”風だったり、心の状態についての上っ面の解釈としてもたらされる。解釈を引き出したいという患者の願望はまったく欠けており、それは分析家から称賛、承認、感服、さらには感謝までも得ようとする明白な欲望に取って代わられる。これらが手に入らなかったときには、分析家の行動は、理解の欠如、患者の才能への羨望からくる攻撃、単なる不機嫌や疑う余地のないサディズムを表していると感じられやすい。

(Meltzer, D. 1966 / 1993, 訳書 p.127-128, 原書 p.17-18)

\* 偽りの自己との相違 (参考: Cassese, S.F., 2001 / 2005, 訳書 p.8, 原書 p.8)

偽りの自己は、環境の要請に従うことによって形成され、真の自己を守り隠すことが目的である。スプリッティングのプロセスが生じ、偽りの自己は様々な水準で組織される。健康な偽りの自己から病的な偽りの自己まで、幅広い。

偽りの成熟は、環境の側が自律を要求する肛門期の開始と関連している。そして依存と分離を否認することが目的である。敵意と分離不安は、子どもが理想化された内的母親との同一化する要因になる。偽りの成熟の根底には、自己の内部と（内的対象としての）母親の内部とを同一化していることによる混乱を見出すことができる。

#### 4) 地理的混乱 geographical confusions

##### 『精神分析過程』1967

地理とは、心的現実において様々な性質をもつ自己と対象との位置関係を意味する。すなわち、外的現実と内的現実、自己と対象、外的対象と内的対象、自己の内部における要素間、部分対象としての母親の身体、身体各所とその内部などの対象関係の地図である。これを Meltzer, D. は「地理

geography」と表現している。

大規模な投影同一化のために対象関係の地理的混乱が生じる段階（精神分析過程の第2相）においては、自己の対象の区別をすることが重要となる。（地理的混乱とは、自己と対象の境界がないこと。分離した同一性を否認するために過剰な投影同一化によって生じる）大規模な投影同一化が活発に働くところの状況では、こちらの痛みなどの自己の内部に置いておくことができない「耐えられない心的状況」を外対象の中へ排泄することが優勢となる。このときの外的対象（治療者）は、トイレットプレストと呼ばれている。これは、「必要だが愛されない乳房」であり、部分対象関係の性質をもっている。

トイレットプレストとしての治療者は分離不安による患者の投影をコンテイングし、和らげることができる。患者はこの体験によって、大規模な投影同一化に頼らない関係性に拓かれることができる。

しかし Meltzer, D. は『閉所 (1992)』のなかで、「大規模な massive 投影同一化」はパーソナリティに内在する量と現象学的な量とを混同する可能性があるため、今後は使用しないと述べている。

#### 5) 領域の混乱 zonal confusions 『精神分析過程』1967

トイレットプレストが確立され、外的対象としての治療者が独立した部分対象として体験されるようになると、分析過程は大規模な投影同一化からは解放されることになる。このとき、投影同一化は自己と対象、内と外といった大規模な地理的混乱に関わるのではなく、部分対象間の混乱として働くようになる（精神分析過程の第3相）。部分対象間の混乱とは、乳首がペニスや舌と混同され、口は膣や肛門と混同される。Meltzer, D. は、このような部分対象間の混乱を領域の混乱として説明している。

## 6) 美的葛藤 aesthetic conflict

### 『精神分析と美 The Apprehension of Beauty』 1988

普通の美しい献身的な母親 ordinary beautiful mother は、普通の美しい赤ん坊にとって、圧倒するような関心を喚起する一筋縄ではいかない対象となるだろう。その関心は、官能的なそれであり、かつ感覚以前のものである。母親の美しさはその乳房と顔に集中し、さらにそれらは乳首と目によってより謎めいた存在となるに違いない。そして、これらの対象を美しいと見ることができるならば、赤ん坊は情熱的な性質の情緒体験によって衝撃を受けるだろう。しかし、母親の振舞いの意味、どうして乳房や母親の目の輝きが現れたり消えたりするのか、一筋の雲によって目前の風景に陰りができるように、母の顔に情緒が通り過ぎてゆくのはなぜか、それらの意味は赤ん坊には知られていない。そして彼〔赤ん坊〕は、言葉も、言葉でない合図による慣わしも、何も分からない異国の地に迷い込んでしまうのである。母が謎となる。

(Meltzer,D., 1988 / 2010, 原著 p.22 / 訳書 p.30)

幼児は、美しい母親によって自身の美的葛藤が刺激され、母の雰囲気や声の調子、目の輝きなど母の謎めいた変化によって幼児は捉えどころのないさの中に置き去りにされる。この体験によって、幼児は「知りたい」という認識本能が刺激され、豊かな想像 imagination が形成される。また、同時に美しさによって喚起されるとらえどころのないさは、痛みとして経験される。

乳児の感覚としての、母親対象の外部の美しさによる衝撃と想像によって読み取られる美しい母親対象の謎に満ちた内部、この外的美しさと内的謎の葛藤を Meltzer,D. は美的葛藤という情動的体験としてとらえた。

## Ⅲ The Claustrium 『閑所』 1992

### 1) 心的装置における地理的次元

#### geographical dimension of the mental apparatus

Meltzer,D. は、無意識的空想におけるこの地理 geography として、6つの次元を区別する。「外的世界」「子宮」「外的対象の内部」「内的対象の内部」「内的世界」、「どこでもないところ nowhere」である。「どこでもないところ」とは、意味が存在しない妄想的組織を意味する。また、「子宮」は、出生前の子宮内生活における体験世界を示しているようである。これらのこの地理は、「どこでもないところ」を除いて、それぞれ心的現実に基づいた構造を持っているが、Meltzer,D. は特に「内的対象の内部」、すなわち内的対象との投影同一化を介した関係性とそれに基づく体験世界に焦点付けている。

(Meltzer,D., 1992, 原著 p.55)

### 2) 内的母親の区画 compartments of the internal mother

美的衝撃のもとで、乳児は出生直後から美的対象の内部への関心を発展させる。美的対象は母親の外的身体である。その内部は、混沌としたものである。それは、母なる大地 earth mother のようにすべての生命を包み込んだ巨大な空間である。この混沌とした生命空間が母子関係のなかで、母親の適切な献身と幼児の豊かな想像との相互作用によって分画化されていく。

分画化は、母親の内部空間を頭部・乳房、性器、直腸に未統合なかたちで分ける。その後、これらの区分は、乳児が母との関係の中で、自分の開口部（穴）を通じて経験することで明確になる。つまり、乳児の目は母親の目に、口は乳首に、耳は母親の口から発せられる声に引き付けられ、これらすべてが一緒になって、赤ん坊の頭部は、母親の頭部・乳房に属する経験や想像の区分を作る。ほかの2つの区分も、同様の形式で作られ出される。



これらの母親の内部の3区分は、分離され続けられる必要がある。成長発達過程で、それぞれの区分における葛藤は、統合のために解決されなければならない。頭部・乳房区画と直腸区画の葛藤が解決されたのち、頭部・乳房区画と直腸区画、性器区画の統合が可能になる。

このような正常な発達を辿った後、3つの区分が自己の侵入的な部分によって占拠されたとき、精神病理が生じる。これは、侵入的同一化の結果であり、そこでは経験や想像を通してではなく、内的対象の内部に入り込むというマスターベーション空想を伴う「暴力、密かに侵入すること、ごまかし」によって、外的対象の内部についての知が探し求められる。自己の乳幼児的部分は、その内的対象の内部に囚われ、閉所恐怖的空間となってしまう。それぞれの区分は、その否定的側面が経験され、閉所恐怖の現象が生じる。

(Meltzer,D., 1992, 原著, p.59-65 要約)

### 3) 閉所での生活 Life in the Claustrium

#### 頭部・乳房区画での生活 life inside the material head/breast

外部の頭部・乳房の特質は、豊かさである。栄養に富んだ乳房は、母子関係のなかで母との性質と統合され、寛大さ、受容力、審美的な互惠関係を表象するようになる。もの想いや理解という母親の能力は、母親の頭部・乳房を知、想像力、象徴形成や創造力の場所にする。

内部では、侵入によって上記の特質が「通俗化」される。「寛大さは報復に、受容力はそそのかしに、互惠関係は馴れ合いに、理解は秘密に入り込むことに、知は情報に、象徴形成は揶揄に、芸術は流行になる」この住人は、侵入同一化によって誇大性を身につけ、才人・鑑定人・批評家を装い、なんでも知っているという態度をとるが、実際には思考と判断の能力を欠いた流行の奴隷であり、何も知らない。自分にいかわしさを感じていても、他人とどこが違うのか分からない。彼ら

の情動には直接性がなく、真の確信がないのを冷笑と嘲りで隠蔽している。Proust が描いたスノップの住む社交界である<sup>1</sup>。Meltze,D. はこれを「洞察の明晰さの妄想 the delusion of clarity of insight」と述べた。

母親の頭部・乳房区画にとどまる限り、彼らは時間が経つのを知らず、怠惰に任せて苦勞せず、何にも愛着せず、Ivan Goncharov の小説の主人公 Oblomov<sup>2</sup> のように永遠の休暇を無為に過ごすことができる。閉所の外では、彼らにとっては、風が吹けばハリケーンに、消化不良が癌に、分離は遺棄に感じられる。しかし、自分に不都合なところは目に入らない人たちなので、自己満足は簡単には揺るがない。

(Meltzer,D., 1992, 原著 p.71-72 要約)

#### 性器区画での生活 life in the genital compartment

性器的区画に生息する者たちは、男根崇拜の原始宗教に支配されており、頭部・乳房の住人に比べて明らかにより混乱している。彼らは、肉体を飾り立て、男はマッチョに女は媚態に訴え、逆らえない魅力をもった絶対的な力をもつ者になろうとする。例えば少年は、男性的投影同一化 masculine projective identification によって、大きく男性的で力強くなくてはならないのである。この同一化に対する彼らの不安は、疾病恐怖や妊娠恐怖に現れる。性に強迫的な関心を抱く思春期の集団とは異なり、彼らは実際に倒錯に陥る危険を感じており、性愛を享受することはできない。(Meltzer,D., 1992, 原著 p.85-88 要約)

内的対象の性器区画は、神秘的なものの源として体験される。母の性器の内部すなわち子宮の内部は、父親がペニスと精液によって母親とその内部の赤ん坊を滋養し、清めている空間として空想され、創造されてゆくとメルツァーは述べている。しかしながら、この空間が侵入によって内側から体験されると、一転して男根崇拜的な饗宴の世界

へと塗り替えられてしまう。すなわち男性は勃起したペニスへの同一化によって男性的支配を振りかざし、女性は過度になまめかしくなって男根を所有、支配することに躍起になる。さらに子宮のなかは性への耽溺の空間となるとともに、望まれない赤ん坊たちのあふれる場となる。このような空間に閉じ込められた者たちは、性に耽溺することに抵抗できないと感じており、妊娠と病気を恐れる。これらの不安の多くは、強迫症状、睡眠や食の困難を生じさせる。（飛谷, 2010, p.273）

#### 直腸区画での生活 life in the maternal rectum

頭部・乳房、性器区画の生活は、未成熟さや厳格な行動を生み出し、親密な関係を作ることができないことをもたらすが、表面的に現実に対応することは可能である。しかし、母親の直腸への侵入同一化は、精神的な混乱を引き起こす。対象の外側からは、この区画は内的・外的赤ん坊の残骸を含んでいるとみなされる。しかし、内側から体験されるときには、肛門的侵入を通して、大便のペニス、倫理的価値下げの場所、サディズム、残虐な行為、服従の場所によって支配される領域になる。この区画の住人は、閉所に囚われており、「どこでもないところ」に捨てられることを恐れて生活しており、どんな犠牲を払ってでも生き残ることが唯一価値あることである。…この区分に囚われることによって、引き起こされる心的な閉所恐怖の状態は、メルツァーによって、真実、信頼、忠誠、正義などが意味をもたない強制収容所のなかに監禁されることによって引き起こされることによって例えられている。そこでは、性的倒錯、嗜癖、犯罪行為が楽しみになる。自己理想化や野心的であるという側面に加えて、この領域への侵入者は監禁されていることへの感情をあまり露呈することなく、倒錯行為や犯罪行為の情緒的結果となる症状（心身症的な症状、不眠症、絶望など）を呈するようである。

（Cassese, S.F., 2001 / 2005, 原著 p.89-90,

訳書 p.93-94）

最後に直腸への侵入というもっとも病理的な状況についてである。ここは、そこから想像される際に、内的外的赤ん坊たちによって出される汚れたものの集積場として経験される。そこでは、内的な父親がペニスによって赤ん坊や母の内部空間を汚染と破壊から守る場であり、その空間における価値は常に「生き残ること」に置かれる。ところが、この内的母親の直腸への侵入によって、そこは修羅場と化すとメルツァーはいう。すなわちそこは糞便でできたペニス faecal penis によってサディスティックに支配される専制的な空間となる。何もかもがないまぜになっていて、美も価値もそこにはない。ここに囚われ、幽閉された者たちは、絶対服従が専制君主に仕える官吏になるかという道しか残されていない。そして、「どこでもないところ」へと突き落とされる恐怖におのき続けるのである。そして、糞便からなるペニスとは、絶望させる悪い対象と負の情緒（－L, －H, －K）に彩られた自己の冷酷な部分から形成されるとメルツァーは述べている。

（飛谷, 2010, p.273-274）

直腸の区画では、恐怖による圧政と服従が基本構造であり、サディズムが浸潤している。サディズムの強度は、全寮制学校から強制収容所までのスペクトラムであるが、恐怖は最初からほとんど変化せず、「遺棄される」恐怖から名状しがたい恐怖 nameless dread が構成される。これは統合失調症の発症に関わるかもしれない。ここでの名状しがたい恐怖は、奇怪な対象 bizarre object の世界のなかでの絶対的孤独である。

外側から見れば、内的な父親およびその性器が、母親と子どもを助ける場である。しかし、肛門的自慰や肛門的攻撃において侵入された内側から見ると、そこは糞塊のペニスが支配する、思考ではなく基礎想定集団<sup>3</sup>の、表面的に従うか、権力

の手先になるかの選択しかない、George Orwell のビッグ・ブラザー<sup>4</sup>の世界である。真実は、すべて反駁できないものとなり、正義は報復の意味を強め、親密さからの行為は操作と偽装の技法に変質し、忠誠は献身にとって代わり、従順さは真実に変わり、情緒は興奮に刺激され、罪悪感後悔へと変わる。糞塊のペニス、悪い対象と自己の冷たい部分（－L,H,K）からなる、原始的な悪性の自己対象である。住人は、そのペニスとなって地下世界を支配するか、またはそれを被虐的に迎える母親の対象に同一化する。彼らは、絶望からの救済を求めて、自殺的な試みをする。

しかし、この世界に住む患者たちは概して、情動的な監禁状態からの解放ではなく、心身症的な症状の除去のみを求めて分析にやってくる。分析者は彼らが誰かを人質に抱えているような危険な印象を受けるが、表向きには彼らは倒錯性と絶望を立派な社会生活の構えで覆っている。

(Meltzer,D., 1992, p.88-92 要約)

#### IV おわりに

Meltzer,D. は閉所が「生活空間」であるという点は、『閉所（1992）』で新たに加わった要素であることを強調している。

あるケースカンファレンスで私は、10年くらい会い続けている40代男性の自己愛パーソナリティ患者のケースを発表したことがあった。その患者は、裕福な実家の庇護を受けながら趣味の世界に没頭するばかりで、社会的に何かを生み出す行為をほとんどなしていなかった。ケースカンファレンスでは、「この患者は、病理の世界をまっとうに生きていて、それが成り立っているようだから、このままでいいのではないか」という意見が聞かれた。私はその発言がここに残っている。

閉所に生きる自己愛パーソナリティ者は、まさに閉所空間で生活している。Life in the ClaustriumのLifeには、生活の他に“人生”や“生き方”という訳をあてることもできる。閉所とは

病理であるほかに、人生そのものという視点も込められているのかもしれない。

#### 文献

- Cassese,S.F. (2001) : Introduction to the work of Donald Meltzer. Karnac Books, London 木部則雄, 脇谷順子, 山上千鶴子訳 (2005) : 入門 メルツァーの精神分析論考ーフロイト・クライン・ピオンからの系譜. 岩崎学術出版社, 東京
- 橋本修 (2013) : 母親の秘密の小部屋の住人たちードナルド・メルツァー『閉所ー閉所恐怖現象の研究』. 現代クライン派精神分析の臨床. 金剛出版, 東京
- 小波蔵かおる (2016) : メルツァーに学ぶー夢にあらわれる閉所. 精神分析研究, 60 (4), 466-471.
- Meltzer,D. (1966) : The relation of anal masturbation to projective identification. Meltzer,D. (1992). The Claustrium. An investigation of claustrophobic Phenomena. Clunie Press, Perthshire Scotland 松木邦裕監訳, 世良洋訳 (1993) : 肛門マスターベーションの投影同一化との関係. メラニー・クライン トゥデイ①. 岩崎学術出版社, 東京
- Meltzer,D. (1967) : The Psycho-analytical Process. The Roland Harris Trust Library, London 松木邦裕監訳, 飛谷渉訳 (2010) : 精神分析過程. 金剛出版, 東京
- Meltzer,D. (1988) : The Apprehension of beauty. Clunie Press, Scotland 細澤仁訳 (2010). 精神分析と美. みすず書房.
- Meltzer,D. (1992) : The Claustrium. An investigation of claustrophobic Phenomena. Clunie Press, Scotland
- 清野百合 (2016) : 倒錯に関するメルツァーの見解の進展. 精神分析研究, 60 (4), 472-478.

飛谷 渉. (2010). 解説—メルツァーの『精神分析過程』. Meltzer, D. (1967): The Psycho-analytical Process. The Roland Harris Trust Library, London 松木 邦裕 監訳, 飛谷 渉 訳 (2010): 精神分析過程. 金剛出版, 東京

## 注

- 1 Marcel Proust による『失われた時を求めて』では、貴族階級のサロンに集まる豪華な人物たちの浅薄さ、皮相さが冷徹な視点で描かれている。
- 2 ロシアの作家, Ivan Goncharov による長編小説。貴族階級に属する主人公 Oblomov の一生を描いた。作中では、当時実在した典型的な貴族階級の世界を写實的に表現している。
- 3 Bion による basic assumption group, 集団の無意識領域。
- 4 作中の全体主義国家「オセアニア」に、1984年時点で君臨する独裁者。オセアニアでは、社会を支配するエリート（党内局員）が権力を維持するために国民（党外局員およびプロレ）に対して独裁権力を振るっているが、「ビッグ・ブラザー」はエリートたちの頂点にいとされる。

---

Concepts about the Claustрум

TOMITA, Yuki

School of Psychology, Meisei University

## abstract

"The Claustрум" is a concept of narcissistic structures proposed by Meltzer, D. In this paper, I describe the personality structures that intrusively identify with the interior of an internal object (a compartmentalized body part) and claustrophobically retreat into that compartment.

**Key Words :** Claustрум, intrusive identification, pseudo maturity

---